

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300102		
法人名	社会福祉法人 日岳会		
事業所名	グループホーム 野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成29年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの思いや、ものとのらえ方、考え方、性格をよく知り、その人の意思を尊重したケアを心掛けています。又、利用者様について知り得た情報を、スタッフ全員で共有し、利用者様が、安心・安全に生活できるよう支援しています。ご家族とも密に連絡を取り合い利用者様の生活の様子をお伝えしています。活動面では、系列施設のイベントへの参加や・季節ごとの地域の催し物見学・季節の行事などの外出活動の他、日常生活のなかで、リハビリ体操・生活リハビリ・工作・料理教室などに力をいれ、楽しみある生活をおくれるよう支援しています。利用者様にとって唯一の楽しみでもある食事は利用者様の好みや、季節感を取り入れたメニューで、栄養やバランスを考えながら、心のこもった暖かい食事を提供しています。

周辺はのどかな地域であるものの近隣に大型商業施設があり、生活しやすい環境に位置しています。入居もないとき日常生活に馴染めず、不穏な日々が続いた利用者のお話を伺いました。今回の訪問時は職員や親しい仲間と話が弾んでいましたが、過去の記録を見ると、管理者が中心となり職員全員が情報の共有に努め家族ともその都度、都度話し合いを重ね本人の心の安定につなげた様子が伺えました。常に利用者の横で、共に時間を過ごし、寄り添うことを大切にすることでホームの温かさを醸し出し、安心へと繋がっています。日常生活の中で自然と役割を持ち、洗濯物たたみや食事の準備、時にはおやつ作りを楽しむ等の支援も行われています。年2回の家族会、敬老会やクリスマス会には家族と共に過ごす笑顔が写真に収められており、皆でホームを支えている様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会などを行う時に理念を共有し、再確認し実践につなげることができるようスタッフ一同努力しています	理念は訪問者にも目につく場所に掲示され、通信に毎回記載することで訪問者、利用者・家族にも知らせている。職員は毎月の勉強会で理念を確認し、理念と実践の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	総会や区役、夜市などに参加して交流を行っています	地域の年間行事をホームの活動計画に取り入れ、季節行事には利用者とともに積極的に参加し交流を図っている。母体施設利用時やちょっとした外出時にも行く先々で知り合いと会うことも多く、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花通信を2ヶ月に1回作成し、南部田地区の回覧板に入れてもらい、利用者様にどのような支援を行っているか知ってもらおうようにしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	関係者に会議時、活動報告や利用者様の状況報告をして意見やアドバイスを受けながらサービス向上に活かしています	会議時にはホームの活動や利用者の日々の様子を写真を盛り込み紹介し好評を得ている。家族も含めた参加者からは質問や意見も出やすく、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回は支所を訪れ連絡を取りながら協力関係を築いています	運営推進会議には毎回参加頂き情報交換を行っており、定期的な訪問もある。ホームからも毎月本庁や支所に出向き、相互の協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同、身体拘束をしない方針を持ちケアに取り組んでいます	法人全体で毎年1～2回の全体研修を受けている。また法人の拘束委員会会議には毎月職員が参加しており、その後職員会議で勉強会を行う等、全職員で身体拘束をしないケアへの知識を深め、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマにした勉強会を行い職員一同虐待をしないように心掛けてケアをしています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修や認知症実践者研修などで学んだ資料を皆で共有し勉強会を通して学ぶようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明したうえで疑問や不安な点などないか、その都度確認し、ちゃんと理解・納得ができるまで説明をしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を取り入れて仕事に反映させています	全体的に家族の面会が多く会う機会も多いため、利用者の日頃の様子を密に話し、関わりを持つことで意見や要望を出しやすい環境を作っている。頂いた意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会で出た意見を反映させています	毎日の業務や利用者への気付きを大切に確認しあっている。毎月の会議で出た意見はその場で話し合い、必要に応じ法人で開催されるリーダー会議にて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心をもって働ける環境作りに努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を見極め、その人に合った研修や資格取得を進めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の勉強会や研修などで交流の機会を設けている。又、意見交換や研修を通じて得た情報をサービスの質の向上に反映できるよう努めています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに馴染むまでは、接する機会を多く持ち、本人の気持ちや困りごと、不安感、要望などに耳を傾け、得た情報をスタッフ一同で共有し、本人への対応を考え安心して過ごすことができるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報や要望、困りごとを聞いて、利用者様への対応を考え、それによって利用者様がどんな状態になっているか常に報告しながらケアの方向性をご家族と話し合っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話しを聞いて、まず何をしてもらいたいのかを見極め対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者様ができる事、できそうなことを職員と一緒にすることで、関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、必要時や、定期的に本人の状態を報告し来荘の依頼を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物がある時には参加し、関係が途切れないよう支援に努めています	入居前の生活環境を出来るだけ継続出来る様支援に努めている。地域行事参加や外出時、病院受診時等には知り合いに会うことも多く、地元ならではの付き合いが継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や、習慣を見極め、利用者同士のトラブルがおきないように注意しながら、良い関わりができるよう努めています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、本人に必要と思われる支援について、ご家族に情報を与え相談に応じています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向に添って支援しています	職員は日頃から利用者と密に接しており、特に1対1で過ごす時間に意向を聞く事が多い。得た情報は職員間で共有し、日々のケアに活かすと共に家族も交えて介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を頂き把握につとめています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に対しては、日頃の表情や態度など観察して対応している。又、バイタルサインチェックを行い身体状況の把握に努めている。本人の持っている機能を活かしながら個々にあったりハビリを実施しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の話を聞きケアの方向性を見だし医療面では担当医と看護師、生活面では介護スタッフの意見を聞きながら介護計画を作成しています	利用者・家族の希望を第一とした介護計画を作成している。毎月の会議で利用者の状況について話し合い、職員・看護師の意見を参考に見直しは3ヶ月毎に行っている。変化に応じ都度見直し、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきなどは個別記録と連絡帳に記入し、出勤時に目を通すようにしている。又、緊急性がある時はその日に、状況を見ながら様子観察の時はスタッフ会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列施設からの情報なども参考にし取り組んでいます		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地域の役員から情報を頂き本人が暮らしを楽しむことができるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に受診を行い状態報告・相談を行い医師の指示に従い対応しています	入居前からかかりつけ医を受診出来る様にしている。職員による通院介助を行い、出来るだけ家族も同伴して頂けるよう声掛けしている。職員介助のみの場合は家族へ結果を報告している。	毎日の業務の中で利用者それぞれへの通院介助が行われています。利用者の状態を家族と共有できる様、受診への同伴依頼の声掛けは是非続けてください。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での気づきや情報はどんな些細な事でも看護師に報告・相談し、看護師が受診時に医師に報告し適切な看護を受けられるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合、週に1～2回面会に行き看護師に状態を聞きながら今後の事についての相談やアドバイスを受けている。又、ソーシャルワーカーにも今後についての相談をしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を配置し体制が整った為、昨年8月に看取り介護を導入しています	昨年8月にホームの体制が整い、家族会で報告・説明し看取り介護の導入を行った。家族の意向も確認している。職員は勉強会で学び、対応出来る様努めているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルを作り定期的に訓練をおこなっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修をおこなっている。又、地域の区長などに協力体制を築いています	利用者も参加し、昼・夜想定で避難訓練を実施している。運営推進会議で地域の方々へも協力を依頼しており、また隣接事業所の協力もある。	地域や近隣事業所の協力体制も整い心強い環境ですが、協力を頂く近隣の方等職員以外の方には利用者避難確認後の約束事等、ホームの決まりを伝えることも是非訓練に取り入れてください。

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を一人の人として、人生の先輩として尊厳ある言葉掛けや支援を行っています	ケアの場面それぞれの状況において配慮した声掛けを行っている。また通院等外出時には知り合いにもよく会うため、服装や身だしなみには特に気を遣っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・生活リハビリ・外出・レクレーションなど全てにおいて本人の意思を尊重しながら支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、本人が自分のペースで、過ごせるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみを行い、一日を気持ち良く過ごせるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者様の好きな物を把握しており、栄養面やバランスを考えながら提供しています。又、できる方には野菜の皮むきやコップ洗いなど促しています	ホーム職員手作りの食事は利用者の大きな楽しみになっている。職員は利用者と共に食卓を囲むことで個々の好みや食欲を把握しており、出来る範囲で調理や片付けの参加もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の好みと栄養バランスを考えた食事を提供しています。又、本人に合った食事形態・食器など工夫し自立で食事ができるよう支援しています。水分は1日トータルで1000～1200CCを目標において摂取できるよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っています。自分で出来る方は自室でしていただくよう声をかけています。できない方にはスタッフが介助したり、動作の手順を一つ一つ声掛けしたり、手まねしたりして本人に促しています。口腔内のチェックもしています		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで、夜間はポータブルトイレを使用してもらい、なるべくトイレで気持ち良く排泄ができるよう支援しています	日中は時間やしぐさにより個々に声かけすることでトイレ誘導を行っている。夜間は利用者の状況によりポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と食物繊維を多く含む食材を使った食事を心掛けています。又、水分が入りにくい方には果物(みかん・スイカなど)やゼリー・ヨーグルトなどで補っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望に添って入浴を行っています	一日おきを基本とし、利用者の希望により午前・午後と利用できる。体調や季節により拒否の場合もあるが、声掛け等で工夫している。入浴しない日も着替えや必要に応じた清拭等で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて臥床や離床を行っています。又、昼寝が必要と思われる利用者様には昼寝の時間をつくっているが無理強いはしていません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の現病に伴う服薬の種類、副作用や注意する事など職員一同把握して服薬介助をしています。又、それによっておこる、小さな変化や、症状にも気をつけています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリや工作、学習活動など、個々の性格や、持っている能力を活かしながら役割を持っていただけるよう支援しています。又、月に1回の外出活動や季節ごとの行事への参加を促し気分転換を図っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など本人の希望がある時はスタッフ、又はご家族に協力してもらい外出しています。リフト車がありますので月1回は色々な所に出かけています	地域行事やホーム行事での毎月の外出だけでなく日頃から外出する機会は多く、利用者それぞれに買い物を楽しむことも多い。ホーム内は日当たりも良く、ベランダでお茶会等外気に触れことも多い。	

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を自信で持っておきたい方はもってもらっています。ホームで預かってほしいといわれる方はホームでお預かりし、本人が買い物をしたい時に渡すようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの電話の依頼があれば、すぐに対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系のライトを使用し、ほどよい生活音のする中でリラックスできる雰囲気づくりを心掛けています。毎月、季節に応じた工作を目的のつく場所に展示し、季節感を感じていただけるよう工夫をしています	全体的に広く明るい作りでゆったりとした広い空間は掃除も行き届き、気持ち良い空間である。リビングにはテレビを囲みソファが置かれ、利用者同士話がはずんだり、思い思いの席で自由な時間が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人用のソファや二人用のソファを置き自由に過ごせるようにしています。又、性格の合わない利用者様同士がトラブルにならないよう声のかけ方に注意をしながら座る席の配慮も行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、本人が居心地良く過ごせるようにしています	家族の協力により入居前からの生活用品が持ち込まれている。筆筒やテレビ、また着物を飾ったりと、以前の生活の様子が窺える空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場は見てわかるように目印をつくり、床はバリアフリーだが、障害物をなるべく取り除き、安全に自立で移動できるよう配慮している		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム野の花
作成日 平成29年 3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	年2回、昼・夜想定の大規模火災時の避難訓練・消火訓練・通報訓練を行っているが、具体的な地域との協力体制ができていない	地域の具体的な協力体制の構築を働きかけ災害対策の強化を図る	南部田福社会へ積極的に出向き交流を深め相互の協力体制を築く。又運営推進会議の委員さんを通して協力体制を築く	1年
2	33	昨年ホームの体制が整い看取り介護導入となったが、職員の看取りに対する知識と技術が十分ではない	ターミナルケア実践に向けての知識と、介護方法及び、技術の向上	定期的に勉強会を行い看取り介護に関する共通認識を持つ。又、看取りケアに関する研修へ参加し知識と技術を学ぶ	1年
3	11	かかりつけ医の受診支援を行っているが、急変や突発的な病には家族も同伴してもらっているが、定期受診に対しては、ほぼ協力が得られていない	利用者の状態を家族と共有できる	定期の受診も早めに家族に連絡をいれ、受診同伴の依頼を行う	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。